

# CO<sub>2</sub>を減らす。

自己治癒コンクリート" Basilisk HA "が  
国土交通省のNETISに登録されました



# Basilisk HA

self healing concrete

販売：aNET ZERO株式会社

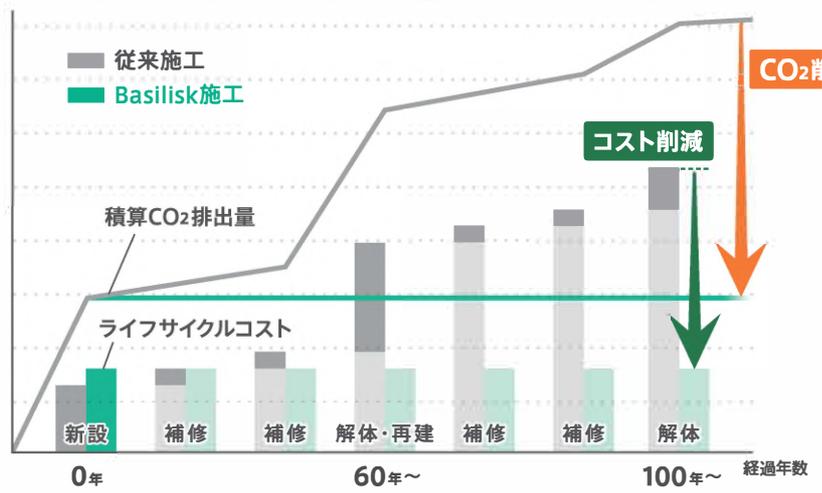
脱炭素化の切り札“Basilisk HA”は生コン・プレキャストの両方で使用可能！  
バクテリアの代謝を利用したひび割れを自己修復するスマートマテリアルです。

## なぜCO<sub>2</sub>削減に繋がるのか？

バクテリアが分裂を続けながら代謝活動によってひび割れを埋めることで、コンクリートは常に自己修復が出来る状態が保たれます。内部の鉄筋が常に守られ続けることから、事実上の「永久構造物」となり、RC造の目標耐用年数を普通品質の65年から高品質の100年以上に延ばすことが可能です。

新設構造物の補修時に発生するCO<sub>2</sub>や、将来の建替え時に排出されるCO<sub>2</sub>を大幅に削減することが出来ます。

従来施工とBasilisk施工における「積算CO<sub>2</sub>排出量」及び「ライフサイクルコスト」の比較



## 導入実績に見るCO<sub>2</sub>削減量

札幌市水道局発注の大型池状構造物に採用され、「HA」を配合した自己治癒生コンを、大型公共事業でポンプ打設する初のケースとして約5,000m<sup>3</sup>が供給されました。

従来の生コンと  
比べて削減できる  
CO<sub>2</sub>排出量

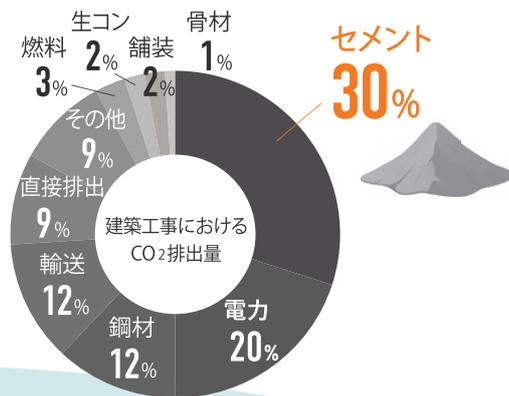
# -450t

1284t



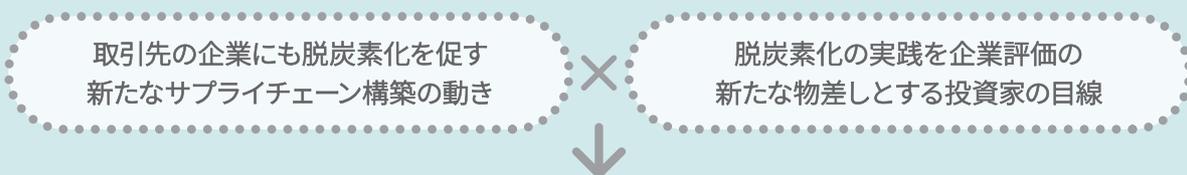
## コンクリートの原料『セメント』とCO<sub>2</sub>の関わり

コンクリートは比較的安価で大量生産ができ、安全性や耐久性も高い材料であるため、建築構造物やインフラ構造に多く用いられています。しかしながら、コンクリートの原材料であるセメントを1t生産するために、約0.8tのCO<sub>2</sub>が排出されており、建築工事におけるCO<sub>2</sub>排出量のうち、セメントからの排出は全体の30%をも占めています。コンクリートは私たちの生活に欠かせない材料でありながら、CO<sub>2</sub>削減への対策が迫られているのです。



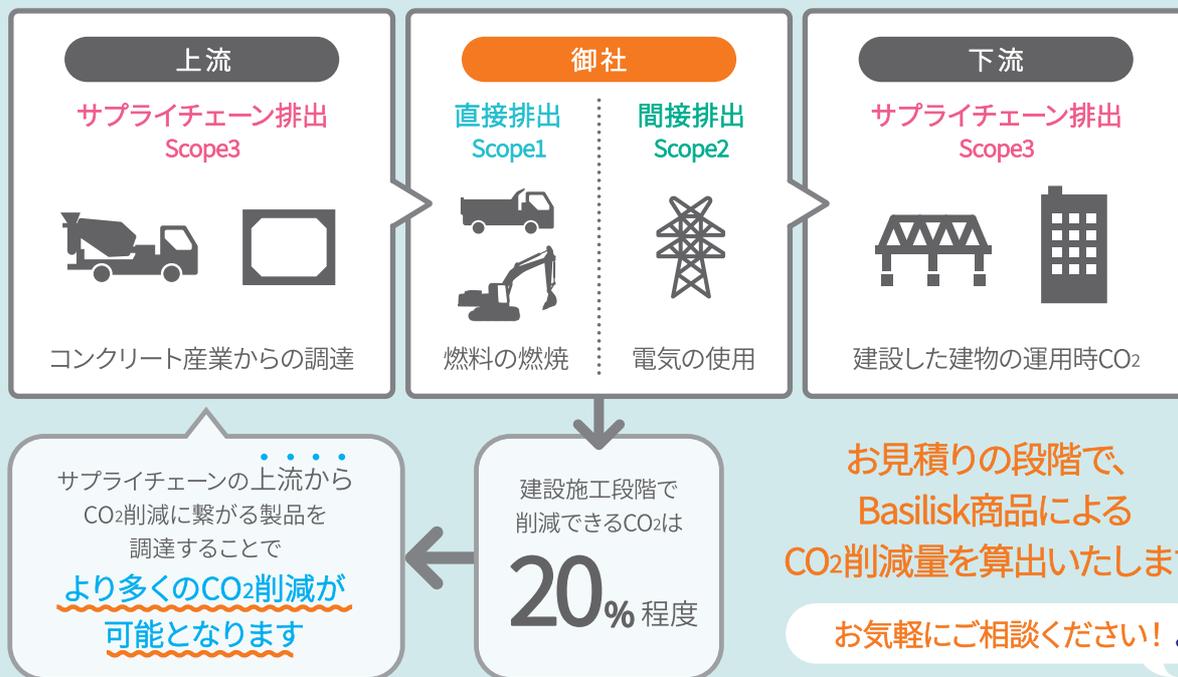
### カーボンニュートラルに向けて

サプライチェーン全体で、温室効果ガス排出を削減する取り組みがすべての企業に求められています。



## いま、脱炭素化につながるスマートな素材選びの時代へ

サプライチェーン排出量 = Scope1排出量 + Scope2排出量 + Scope3排出量



Basiliskマスコットキャラクター“バン”



株式会社原田興産は、創業80年を迎える2044年までに、温室効果ガスのサプライチェーン排出量を実質ゼロにする『NET ZERO 2044』にコミットメントします。

**株式会社 原田興産** 〒869-2501 熊本県阿蘇郡小国町大字宮原2311  
TEL: 0967-46-4149 FAX: 0967-46-5531

小国本店 / 〒869-2501 熊本県阿蘇郡小国町大字宮原2311 TEL:0967-46-4088 FAX:0967-46-3905  
山国営業所 / 〒871-0712 大分県中津市山国町守実392-1 TEL:0979-62-3345 FAX:0979-62-3317

熊本支店 / 〒861-8034 熊本県熊本市東区八反田1丁目3-70 TEL:096-385-9071 FAX:096-382-2230  
日田支店 / 〒877-0089 大分県日田市大字山田1288 TEL:0973-28-2221 FAX:0973-28-2223

